

御殿堰 大黒天便り



◆第一三号◆

山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私



「御殿堰大黒天」です。「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など「なるほど!」と思っていただけの内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第一三号です。

◆秋近し◆

八月の花笠まつりも終わり、秋の訪れを感じる季節となりました。秋と言えば『実りの秋』『収穫の秋』。秋もまた、夏同様にお祭りの多い季節となります。

山形県内でも、様々なお祭りが開催されます。それぞれの地域特有のお祭りを楽しんでみてはいかがでしょうか?

【村山地方のお祭り】

- 九月四日：芋煮大会(山形市)
- 九月一〇日：元祖芋煮会(中山町)
- 九月一七日～二五日：かかし祭(上市市)
- 九月一七日～一九日：どんが祭(河北町)
- 九月一八日：寒河江まつり(寒河江市)



特選・入選作品発表

『やまがた街なかスナップ 写真コンテスト』

街なかの美しい風景・イベントなど、街なかの隠れた魅力を伝える写真を七月一日～八月二十五日まで募集してきました。応募総数一三八点の中から、九月二日に「一般の部」「高校生の部」それぞれの特選・入選作品が発表されました。

■一般の部■

【特選】

「涼風鈴」①

撮影場所：水の町屋御殿堰
山形市 粒木友香里さん

【入選】

「お気に入りのマチナカ涼みどころ」②
撮影場所：済生館北側の御殿堰中央親水広場
山形市 小林みずほさん

【入選】

「慈光明院のお地藏様」③
撮影場所：慈光明院
山形市 大貫和春さん

■高校生の部■

【特選】

「浴衣カップル」④
撮影場所：水の町屋御殿堰
山形市・山形市立商業高等学校
深瀬千夏さん

【入選】

「中庭の風景」⑤
撮影場所：山形まるごと館
山形市・東海大学山形高等学校
大泉譲さん

【入選】

「街の中の癒し」⑥
撮影場所：文翔館の裏通り
山形市・東海大学山形高等学校
高橋直也さん

皆様からご投稿いただいた写真たちをみて「山形にはこんなに素敵な場所・景色がたくさんあるんですね」と話しかけてくださった県外からの旅行者の方の言葉が印象的でした。

やまがた街なか スナップ写真コンテスト

作中撮影中
詳細はコチラから



【高校生の部】入選 ⑤『中庭の風景』



【高校生の部】特選 ④『浴衣カップル』



【一般の部】入選 ③『慈光明院のお地藏様』



【高校生の部】入選 ⑥『街の中の癒し』



【一般の部】入選 ②『お気に入りのマチナカ涼みどころ』



【一般の部】特選 ①『涼風鈴』

山形あれこれ

⑩芋煮の起源

山形の秋と言えば「芋煮会」。家族・友人と楽しめる方も多いのでは?山形では御馴染の「芋煮」ですが、そもそも何故秋に芋煮を食べるようになったのかご存知ですか?里芋が日本に伝わったのは縄文時代とされていますが、里芋の主な調理法は焼く・蒸すであつたと考えられるため、「芋煮」の成立は更に後世のことと考えられます。江戸時代、米の不作に備えて里芋も作られており、「芋煮」自体は家庭料理としても食べられていたが、里芋の収穫時期に合わせて「芋煮会」の原型とみられることが農村部で行われていたようです。

「芋煮会」の原型は、野外で集団で鍋料理を囲む収穫祭的な意味合いの行事でしたが、村をあげてのものだったという記載はないため少数で行ったとされます。

里芋の種芋は穴を掘って地中での保存が可能ですが、食用は七℃～マイナスイシ℃に保たないと腐敗。また、温度が低すぎても保存できないため、寒冷地の東北地方で越冬させるには囲炉裏や屋根裏などの温度が高いところでの保温が必要となりました。その保存の難しさから、厳冬期前に消費する意味合いもあつて「芋煮会」の原型が行われたと考えられています。

江戸時代後期に山形藩主だった秋元志朝が、館林藩に転封される時に芋を煮て振舞ったという記録を「芋煮会」の起源とする説もあります。

明治時代に行われた馬見ヶ崎川改修工事において、工夫らは河原で大鍋を用いたちゃんこ鍋のようなものを屋敷として食べており、農業に従事する当時の工夫らが戦後になつて秋の収穫後に当時の工夫ら河原で大鍋を囲むようになり、その具材として里芋も用いられた。以降、当時の工夫ら以外にも河原での芋煮会が広まったとする説もあります。

「芋煮の起源」調べてみると色々な説がまだありそうです。

次号の発行は一〇月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。